

Session 5 国際的リロケーション

○ テキサスと米国 Laura Dale

A テキサスからのリロケーション

両方の親のそばに住むことが子の最善の利益

地理的制約に積極的で、テキサスから離れてのリロケーションは難しい

正確な面会スケジュールが原則で、国際的リロケーションの妨げとなる。

しかし、リロケーションが子の最善の利益と判断すれば別。

リロケーションを許容する要素

子の福祉を最優先する親の能力

積極的な親子の関わりの推進

両方の親の子育てへの参加

地理的な近さ

経済的あるいは労働環境とよりよい生活の可能性

移動する動機、反対する動機

友人の存在

監護者の感情的精神的状況へのプラスの影響とその子どもへの反映

非監護親がリロケーション後に親子の関係を保つための能力

B 米国の他の州からのリロケーション

アラバマ、フロリダ、ペンシルベニア

C 米国へのリロケーション

マサチューセッツ以外は、UCCJEA (Uniform Child Custody and Jurisdiction And Enforcement Act) をもつ。

各州は、他州、他国の子の監護についての裁判所の判断を原則として承認・執行することとなっている。

UCCJEAでは、米国に連れ去られた子について、米国が恒久的な監護権を定める管轄を持つことを禁止。

○オーストラリア Amanda Humphreys

子の最善の利益が最重要だが、唯一の考慮事項ではない。

リロケーションがどうしても必要だと示すことは求められない。

裁判所は双方の提案を評価しなければならない。

.....

オーストラリアの家庭裁判所がどのようにリロケーションの事件について判断するか

オーストラリアの裁判所は、どのようにして子の最善の利益を判断するか

ファミリー・コンサルタント（心理学等の社会科学の専門家）の作成する家族報告書が役に立つが、裁判官はそれに拘束されない。

独立の子どもの代理人（ICL） 子どもを代理するのではなく、子の利益を代理。

子の利益のための情報を集め、証拠を裁判所に提出。時に子と話をする。

リロケーションがうまくいく場合と認められない場合

○ 英国 **Carolina Marin Pedreno**

他方の親の同意を得るか、代わりに裁判所の許可を得て子を移動させる。これなしでは犯罪。

法律の動向。判例。

○ シンガポール **Poonam Mirchandani**

裁判例の動き。

結論として、親の都合と子の利益とのバランスを考えた判断がなされているようである。